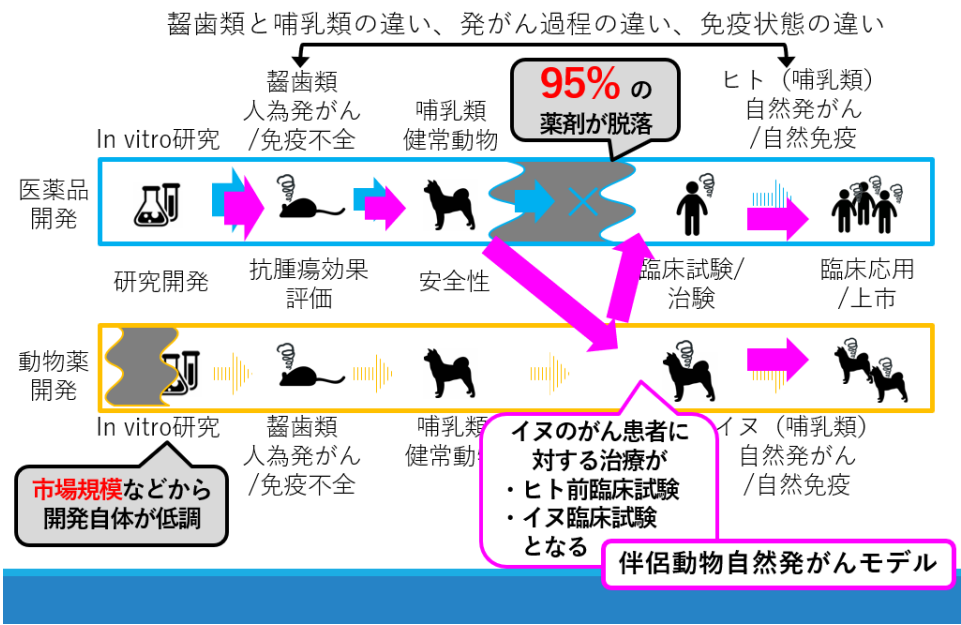




「死の谷」を越える「伴侶動物自然発がんモデル」の可能性



小動物の固形がんを対象に、実験室においては実際のがん症例から分離樹立した細胞株や臨床検体などを用いた基礎的な研究を行い、附属動物医療センターにおいては新規診断治療法の開発とその臨床応用を進めています。基礎研究ではがん微小環境の転移浸潤、がん免疫機構についての研究を行っており、臨床応用ではリキッドバイオプシーによるがん検査法の確立や新規抗体療法の臨床試験を実施してきました。特に伴侶動物自然発がんモデルの概念から人と犬、猫と一緒に治ることのできる薬剤をはじめユニバーサルな創薬や臨床機器の研究開発を医学部、工学部、薬学部などと連携して推進しています。